

科目名	論理的思考 C(地域の論理) Logical Thinking C:Logics in Areal Issues						
科目担当者	朝日 克彦 ASAH I Katsuhiko						
単位数	2	配当年次	1	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科[総合教育科目 人間形成] 経営学部・経営学科[総合教育科目 人間形成]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	<p>世界中の各地域では、人々は農業に従事して日々の食料を確保し、あるいは商業や工業に従事して生活を営んでいる。その結果が各地の産業であり、さまざまな生活形態に現れてくる。またその中に今日的課題も含まれてくる。</p> <p>宮崎、九州、国内、世界の人々がその土地の自然環境を巧みに最大限活用して、今日の生活の営みになっている。地域についてのイメージに依拠することなく、自身で見て、統計データを援用して、特定地域の「地域像」を描けるようになる。</p>						
授業の到達目標	<p>①講義での解説を通して、結果としての「生活形態」だけでなく背景にある「自然環境」や「歴史」を踏まえ自身で地域の課題を見出せる。</p> <p>②自分自身の能力で地域の現状を客観的に把握し、各地様々な事例も援用して、地域課題を把握し、解決策を提示できる。</p>						
授業計画・内容	1	ガイダンス（講義の受講方法、博物館の見学、実際の地域の見学、レポート作成）					
	2	九州地方の成り立ち					
	3	九州地方の自然環境					
	4	火山の台地での人々の暮らし					
	5	宮崎の農業					
	6	宮崎の畜産業					
	7	九州の工業					
	8	人口構造の転換					
	9	高齢社会の課題					
	10	綾町のユネスコエコパークと地域づくり					
	11	九州の災害(1)					
	12	九州の災害(2)					
	13	学生の成果発表					
	14	学生の成果発表					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	次回講義内容のキーワードの意味と事例を調べておく（毎週1時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	出身地や現在居住している土地、あるいは関心のある土地を【実際に訪問】して、その土地の自然環境や生業の一端を観察してくる。そのうえで統計資料も踏まえ、地域の現状を把握し、課題を指摘して解決策をレポートで提出する。（講義時間内）。（45時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義時間内のレポート</li> <li>定期試験</li> </ul>					60% 40%	①、② ①、②
成績評価基準	<p>秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	なし						
参考文献	参考資料：適宜指示します。						
その他	講義期間中の早い段階に各自で地域に実際に出て、見て、調べて、レポートにします。						